議長賞　家族といられるしあわせ

泉小学校　５年　工藤（くどう）　政志朗（せいしろう）

去年の夏、ぼくは家族といっしょに広島の原爆ドームや原爆資料館を見に行きました。あの日見た景色を今でも覚えています。

広島駅から路面電車に乗り少し歩くと、見たことのない建物が見えてきました。屋根は鉄こつがむきだしになっていたり、レンガは焼けてこげていました。原爆ドームです。そこからさらに歩いていくと原爆資料館がありました。そこには焼けて黒くなった三輪車や熱で変形してしまったガラスびん、黒焦げになったお弁当などが展示されていました。

その光景は予想以上に悲惨でした。資料館にいることが辛くなってしまったぼくは途中で資料館を出ました。気持ちが落ち着いてまず「こんなに怖い戦争は二度と起きてはいけない。」と思いました。

今年、ぼくは学校で受けた平和学習の授業をきっかけに原爆や戦争についての本を読んでみました。そして、その中でおどろく話を見つけました。それは、もしかしたら、僕も家族も友達も、生まれていなかったかもしれないということです。実は原子爆弾は北九州に落とされる予定だったそうです。しかし、八月九日の福岡県は曇っていたので中止され、長崎に落とされてしまいました。もしも原子爆弾が北九州に落ちていたらと想像するだけでおそろしくなります。ぼくが広島で見たものがぼくの住む市で起きたかもしれないのです。ぼくは今、家族や友達とすごせていることに安心しました。そして、広島や長崎の人はその平和がいっしゅんでうばわれたのだと思うととても悲しくなりました。

ぼくはこれからぼくが大好きな人たちと元気にすごせていることに感謝しながらいちにちいちにち生きていこうと思いました。そして、ぼくが広島で見た物や本で読んだことを友達ともいっぱい話したいです。